

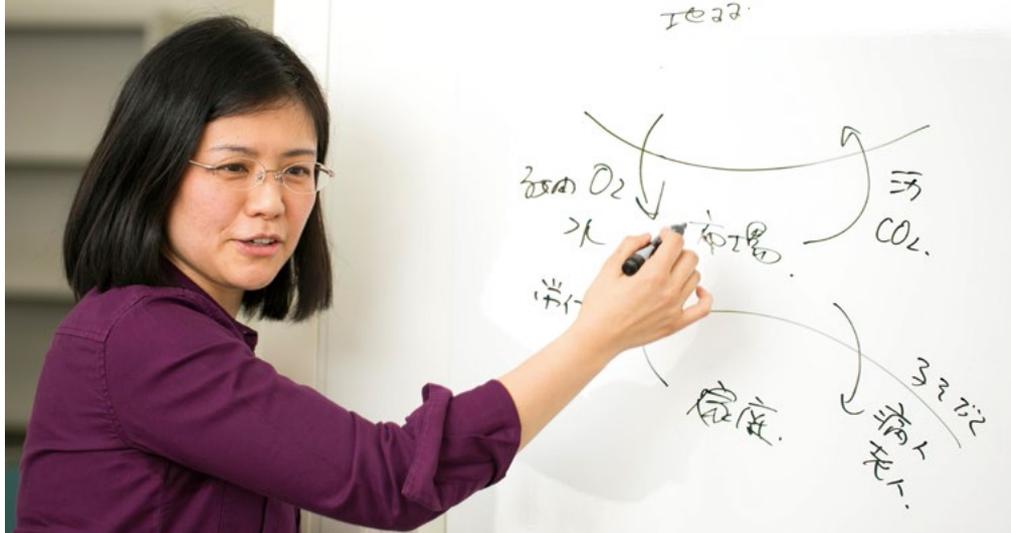
さきがける 科学人

vol.49

黒田 公美

Kuroda Kumi

理化学研究所 脳科学総合研究センター
チームリーダー



プロフィール 1992年、京都大学理学部物理系を卒業。93年、大阪大学医学部に学士入学後、97年に医師免許を、2002年に博士(医学)を取得。カナダのマギル大学に留学し、親子関係の研究をスタートさせ、04年に理化学研究所へ。14年より現職。趣味はヨガ。

現代の子育てを脳科学で支えたい

若い頃は変わり者

泣き続ける赤ちゃんを安心させる方法があります。ぴたっと体につけて抱いて歩くと、3秒で心拍数が下がり、泣く時間が顕著に減ります。5分続ければ、かなりリラックスします。副交感神経が興奮するからです。経験的に知られている現象を、私たちが初めて科学的に証明しました。この「輸送反応」はマウスも同じ。子が危険から逃れやすいため進化の過程で定着したと考えています。このような親子の行動を脳科学で調べています。

大学までは変わり者で、団体行動が苦手でした。そんな私が子育てしながら“人の関係性”を研究する姿を見て、当時の友人は驚きます。物理系で“宇宙論”のゼミにいましたが、学業そっちのけでアジア各地を旅行していました。平均寿命の短いネパール奥地に行くうちに、シルクロードで医者でもやろうかと医学部へ入り直しました。しかし、合格後に訪れたパキスタンのアフガン難民キャンプで、繰り返される内紛、裏庭で散弾銃の弾丸を作るおばあちゃん、その暴発で片腕を失ったヘロイン中毒の男、代わりに銃を持たされる子どもたちの世界を見て、医療だけでは現状を変えられないことを痛感しました。目標を見失う中、好奇心で始めた基礎研究にはまっていたのです。

ラボでも家でも子どもにまみれ

大学院は、夜間の撮影のために顕微鏡の下で寝るような生活でした。しかしある時、飼育中のマウスがまめまめしく子育てする姿を見て急にうらやましくなりました。3人の子どもを育てたいという昔からの夢を思い出し、結婚しました。

プライベートな人生も仕事以上に大切です。「おせっかいな大阪のおばちゃん」気質も手伝い、研究室に来る人には、40歳の将来像を尋ねます。「研究一途の人生もよし。でも家族や子どもを持ちたいなら、結婚や出産時期、支えとなる経済力について20代でよく考えて進路を選んで」が口癖です。

親子関係をテーマにしたのは、子育て経験が武器にするためでもありました。わーんと泣く子が私の顔を見て泣き止む時、脳はどう働くのでしょうか。何をやっても新しいことばかり。産休中に、赤ちゃんの体調を見ながら予備実験を繰り返しました。わが子だからこそできたことです。

社会とつながりのある脳科学をめざして

野生のサルは、幼い頃から群れの赤ちゃんサルに接し子育てを見て育ちます。その経験が自分の子育てに不可欠です。隔離されて育った動物園のサルの大半は、出産後に子を放棄します。人は、よその赤ちゃんに触れずに出産を迎えても、情報を探し懸命に子を育てます。社会はこうした親の頑張りを支えられています。

社会は、労働力という資源を利用する一方で、労働力を生み出す子育てや介護などの家庭内の労働は、無償で家庭に負担させてきま

した。その歪みが、少子化や子・高齢者への虐待に現れています。この構図は、地球の資源を浪費し続けた結果、環境汚染や温暖化現象に気づき、慌てるのと似ていませんか。社会や家庭の問題を解決するために、世の中を動かす科学的知見を提供することが、私の研究の目標です。

夢は大きいのですが、実は心配なのは私自身の家庭です。休日も子どもの手を振り払い仕事に出ることもあります。それでも、小さいうちは必ず一緒に寝ます。社会に私の代わりはいるけれど、わが子に私の代わりはいません。一緒に寝てくれる時期はそう長くありませんね。

親子関係はダイナミックに変わり続け、子の独り立ちがゴールです。次は親離れ・子離れにも脳科学で迫ってみたいですね。

(執筆: JST 広報課・松山桃世)



夫・真也さん(JST CRESTの研究代表者)も友情出演! 「子育て道は、男のたしなみ」。

社会技術研究開発センター (RISTEX)

「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築」領域研究開発プロジェクト「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」

理系と人文・社会系の研究者が協力し、当事者の意見を踏まえて、親、子、家庭や社会、行政や法制の4つの視点から虐待リスク要因を分析します。個々の家庭のニーズにあった養育者支援を開発し、子どもの虐待低減をめざします。



長男に電極やセンサーをつけ、実験中。

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

R280
古紙/ルーフ配合率80%再生紙を使用

JSTnews

May 2016

発行日/平成28年5月10日
編集発行/国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)総務部広報課
〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
電話/03-5214-8404 FAX/03-5214-8432
E-mail/jstnews@jst.go.jp ホームページ/http://www.jst.go.jp
JSTnews/http://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号・バックナンバー